



クローズアップ
CLOSE UP

熱気と塗料で火照る頬

7月29日に大胡祇園まつりを開催。子どもたちが山車に乗って祭りをにぎやかし、その後は暴れ獅子が名に恥じない暴れぶりを見せつけながら会場を闊歩しました。獅子の赤い塗料は顔に塗ると無病息災に効くとの言い伝えがあり、多くの人が頬を赤く染めました。



作品への熱い思い語る

前橋シネマハウスで、上映作品「ガチ星」のトークショーを開催。主演の安部賢一さんと現役競輪選手が登場しました。競輪選手を目指していたという安部さんは、競輪が舞台のこの作品に特別な思いで臨んだそう。撮影秘話や競輪トークで盛り上がりました。



いきいき
まえばし人

老舗こんにやく店7代目
稲村景さん・61歳
東片貝町

原点回帰を図る、
新たな挑戦



嘉永3年から続く、老舗こんにやく店丸大オヲツヤ商店代表の稲村さん。店を継いでからこれまで、学校給食への提供や卸を主体に店を守ってきた。「こんにやくや寒天など、素材を業者に提供することを主にやってきました。だけど、めぶくフェスなどのイベントに参加して消費者と直接話すと、自分たちが思っている需要と少し違うことが分かって。もっと直接お客さんとやり取りがしたい」

「甘味処として前橋の何かを使いたいと思ったときに、赤城の水は軟水で美味しい水だったので、これを使ってかき氷をしよう、と考えました」

仕事以外にも月1回、ボランティアでJR前橋駅前の清掃活動に取り組むなど地域のために幅広い活動をしている稲村さん。「ここまで長く続いているのは地元の人あってこそだから、地元に戻元していけるようなことを、時代に合わせて展開していきたいです」

甘味処を訪れる人の8割は新しい客だという。地元を愛する稲村さんの人柄と新たな挑戦で、老舗は新たなつながりを生み出し、続いていく。

創造の森から
アーツ前橋
館長日記 Vol.3



〒027-230-1144
アーツ前橋

アーツ前橋の住友文彦館長が日々のあれこれをつづるこのコーナー。第3回は開催中の企画展「昭和の肖像」についてです。

夏の名物となりつつある猛暑割は、予想最高気温が35度を超えると入場料が200円割引になるものです。昨年は驚いたことに一日もなかったのですが、今年は「昭和の肖像」展が始まってから連発。美術館は作品管理のため湿度を一定に保つ施設なので、クールシェアに役立つというアイデアです。

「昭和の肖像」展は、木村伊兵衛や林忠彦、ロバート・キャパなど、著名写真家の作品が335点並ぶ圧巻の展覧会。原節子など往年の大スターから文豪、美術家たちの肖像写真が皆さん

赤城の恵みで発電開始

まえばし赤城山小水力発電所が富士見町赤城山の林道沿いに完成。開所式と見学会を7月26日に開催しました。一般家庭年間消費電力の約330世帯分にあたる約120万KWhを、赤城大沼用水の一部を使って発電。本市のクリーンエネルギー化に貢献します。



浜口タカシ《原爆ドーム「人類初の惨禍」より》1966年（昭和41年）

を迎えます。そして、大衆社会の到来と戦争の時代。戦時中出版された雑誌も見どころです。焼け野原の建設現場、物不足でもたくましく生きる人たちの表情など、写真が残した風景や人物の記録はとても貴重です。また、桐生市在住でハッセルブラッド国際写真賞を受賞している石内都さんの作品もぜひご覧になってほしいです。

来年から新しい年号になり、急速に過去に遠のいていく昭和という激動の時代を振り返ることが出来る展覧会になっています。開幕直後、高校生の男の子がおじいちゃんの思い出話を聞かながら2人で観覧しているのが実に忘れがたく、そんな風な家族で楽しんでほしいです。同展は9月3日(月)まで開催中です。